

# NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2013年11月08日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。  
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2010000050"/> 整理番号 <input type="text" value="11538"/> 担当者 <input type="text" value="松岡 義人"/>
表 題	<input type="text" value="コンクリート構造物のひび割れ自己修復工法の提案"/>
技術分野	<input type="text" value="土木・建築"/> <input type="text" value="化学・薬品"/> <input type="text" value="電気・電子"/>
適用製品	<input type="text" value="鉄筋コンクリート構造物, プレキャストコンクリート製品"/>
目 的	<input type="text" value="コンクリートの材料強度を超える過度の引張応力, 温度応力及び収縮に伴う引張応力によりひび割れが発生し, その完全な防止は非常に困難である。ひび割れはコンクリートの強度の低下や気密性の低下などの直接的な性能劣化だけでなく, 中性化や塩害などによる劣化を促進し, 鉄筋の錆を誘発することで早期劣化の原因となる。コンクリート打設時に, 供試体内部に中が空洞で円管状のネットワークを作製し自己修復システムを提案する。"/>
技術概要	<input type="text" value="この方法は, コンクリートにネットワークを作製し, 補修剤を注入することでコンクリートにひび割れが発生した際, 補修剤を内包したネットワークの内部にも亀裂が発生し, 補修剤がひび割れに充填されることで修復することができる。本発明は, RC構造物に発生したひび割れを, 自動的に修復させることを目的とし, ネットワーク及び補修剤を自己修復システムとして用いた際の自己修復性能として, 1)繰り返し修復を行った際の強度回復率の変化, 2)養生温度が補修剤の硬化時間に及ぼす影響, 3)補修剤の粘性とひび割れ幅の違いがひび割れへの充填に及ぼす影響について検討を行った。その結果, 繰り返し修復を行うことで強度が上昇すること, ひび割れに充填された補修剤の硬化期間, 並びに補修剤が修復可能なひび割れ幅の範囲について確認できた。"/>

技術移転等をご希望の場合は, 下記事項をご記入の上, 本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>
会社名	<input type="text"/>
所 属	役職 <input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/> FAX番号 <input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>
連絡事項	<input type="text"/>



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp